2024年1月期　決算短信（ＲＥＩＴ）

2024年3月15日

不動産投資信託証券発行者名	エスコンジャパンリート投資法人	上　場　取　引　所	東
コ　ー　ド　番　号	2971	ＵＲＬ	https://www.escon-reit.jp/
代　表　者	（役職名）執行役員	（氏名）海老原　忠	
資産運用会社名	株式会社エスコンアセットマネジメント		
代　表　者	（役職名）代表取締役社長	（氏名）織井　渉	
問合せ先責任者	（役職名）財務管理部長	（氏名）田中　賢一	
	ＴＥＬ　03-6230-9338		

有価証券報告書提出予定日　2024年4月25日　　分配金支払開始予定日　2024年4月25日

決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2024年1月期の運用、資産の状況（2023年8月1日～2024年1月31日）

(1) 運用状況　　（%表示は対前期増減率）

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年1月期	2,444	△2.1	1,274	1.5	1,136	△0.4	1,135	△0.3
2023年7月期	2,497	△1.7	1,255	△7.8	1,140	△4.5	1,139	△38.7

	1口当たり当期純利益（注）	自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	営業収益経常利益率
	円	%	%	%
2024年1月期	3,227	2.9	1.5	46.5
2023年7月期	3,239	2.9	1.5	45.7

（注）1口当たり当期純利益は、当期純利益を日数加重平均投資口数（2023年7月期 351,967口、2024年1月期 351,967口）で除することにより算定し、小数点未満を四捨五入して記載しています。

(2) 分配状況

	1口当たり分配金（利益超過分配金は含まない）	分配金総額（利益超過分配金は含まない）	1口当たり利益超過分配金	利益超過分配金総額	配当性向	純資産配当率
	円	百万円	円	百万円	%	%
2024年1月期	3,227	1,135	－	－	100.0	2.9
2023年7月期	3,238	1,139	－	－	100.0	2.9

(3) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1口当たり純資産
	百万円	百万円	%	円
2024年1月期	75,530	39,243	52.0	111,497
2023年7月期	75,595	39,247	51.9	111,507

(4) キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2024年1月期	1,326	△86	△1,142	5,770
2023年7月期	1,273	△101	△1,858	5,672

2. 2024年7月期の運用状況の予想（2024年2月1日～2024年7月31日）及び2025年1月期の運用状況の予想（2024年8月1日～2025年1月31日）

（%表示は対前期増減率）

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1口当たり分配金（利益超過分配金は含まない）	1口当たり利益超過分配金
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	円
2024年7月期	2,454	0.4	1,232	△3.3	1,102	△3.0	1,101	△3.0	3,130	―
2025年1月期	2,613	6.5	1,261	2.3	1,118	1.4	1,117	1.4	3,174	―

（参考）1口当たり予想当期純利益（予想当期純利益÷予想期末投資口数）
（2024年7月期）3,130円、（2025年1月期）3,174円

※　その他

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無
② ①以外の会計方針の変更　：無
③ 会計上の見積りの変更　：無
④ 修正再表示　：無

(2) 発行済投資口の総口数

① 期末発行済投資口の総口数(自己投資口を含む)	2024年1月期	351,967口	2023年7月期	351,967口
② 期末自己投資口数	2024年1月期	0口	2023年7月期	0口

（注）1口当たり当期純利益の算定の基礎となる投資口数については、19ページ「1口当たり情報に関する注記」をご覧ください。

(3) 金額及び比率の端数処理

本書では、特に記載のない限り、記載未満の数値については切捨て、比率は四捨五入により記載しています。

※　決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です。

※　特記事項

本資料に記載されている運用状況の見通し等の将来に関する記述は、本投資法人が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の運用状況等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。また、本予想は分配金の額を保証するものではありません。

なお、上記予想数値に関する前提条件の詳細は、5ページ記載の「2024年7月期（2024年2月1日～2024年7月31日）及び2025年1月期（2024年8月1日～2025年1月31日）運用状況の予想の前提条件」をご参照ください。

以 上

目次

1．運用状況 …… 2
（1）運用状況 …… 2
（2）投資リスク …… 5
2．財務諸表 …… 6
（1）貸借対照表 …… 6
（2）損益計算書 …… 8
（3）投資主資本等変動計算書 …… 9
（4）金銭の分配に係る計算書 …… 10
（5）キャッシュ・フロー計算書 …… 11
（6）継続企業の前提に関する注記 …… 12
（7）重要な会計方針に係る事項に関する注記 …… 12
（8）重要な会計上の見積りに関する注記 …… 13
（9）財務諸表に関する注記 …… 14
（10）発行済投資口の総口数の増減 …… 19
3．参考情報 …… 20
（1）運用資産等の価格に関する情報 …… 20
（2）資本的支出の状況 …… 26

1．運用状況

(1) 運用状況

①当期の概況

（ア）投資法人の主な推移

本投資法人は、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号。その後の改正を含みます。以下「投信法」といいます。）に基づき、株式会社エスコンアセットマネジメント（以下「本資産運用会社」といいます。）を設立企画人として、2016年8月26日に設立され、2019年2月13日に株式会社東京証券取引所（以下「東京証券取引所」といいます。）不動産投資信託証券市場に上場（銘柄コード2971）し、継続的に人口集中が予想される都市圏に位置する地域コミュニティに根差した暮らし密着型商業施設（注1）及びその底地（注2）に重点投資を行うポートフォリオを構築してきました。

本投資法人は、人口減少と大都市圏への人口集中がより一層進む中で、生活利便性の高い大都市及び大都市へのアクセスが容易な周辺地域に住むニーズは今後も安定的であり、そのような地域に住む人々の豊かな暮らしを支えるためには、これまで投資を行ってきた商業施設（注3）及びその底地に加え、新たに住宅（注4）と、地域コミュニティが抱える少子高齢化問題、環境・エネルギー問題、労働・教育問題、自然災害がもたらす問題等の暮らしの中に存在する多種多様な社会問題の解決により、持続可能な社会の実現に資する資産が必要であると考え、2023年10月27日の投資主総会において、これらの資産を「暮らし密着型資産」（注5）と定義し、主に五大都市圏（注6）に所在する暮らし密着型資産へ投資対象を拡大する等の投資方針の変更を行いました。

上記の投資方針のもと、運用資産のより着実な成長を目指し、投資主価値の最大化を図っていきます。当期末時点で本投資法人が保有する資産は38物件、取得価格総額は69,604百万円となっています。

（注1）「暮らし密着型商業施設」とは、日常生活に必要な商品・サービスを提供する、駅直結、住宅密集地又は幹線道路に面する等の日常生活圏に立地する不動産をいいます。
（注2）「底地」とは、第三者が賃借してその上に建物を所有している土地をいいます。以下同じです。
（注3）「商業施設」とは、不動産を構成する建物の各用途の床面積のうち、商業テナント（物販・飲食・サービス業、アミューズメント施設等）向けの用途の床面積が最大である不動産をいいます。以下同じです。
（注4）「住宅」とは、不動産を構成する建物の各用途の床面積のうち住居用の床面積が最大である不動産（ただし、持続可能な社会の実現に資する資産を除きます。）をいいます。以下同じです。
（注5）「暮らし密着型資産」とは、商業施設、住宅、持続可能な社会の実現に資する資産をいい、底地を含みます。
（注6）「五大都市圏」とは、「北海道圏」、「首都圏」、「中部圏」、「近畿圏」及び「九州圏」をいいます。なお、「北海道圏」とは、北海道を、「首都圏」とは、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県及び群馬県を、「中部圏」とは、愛知県、静岡県、三重県、長野県及び岐阜県を、「近畿圏」とは、大阪府、京都府、兵庫県、奈良県及び滋賀県を、「九州圏」とは、福岡県、熊本県、鹿児島県、宮崎県、大分県、佐賀県及び長崎県をそれぞれいいます。

（イ）運用環境と運用実績

当期における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による行動制限の解除により正常化されるなど、経済社会活動は日常を取り戻し、2023年10～12月期の実質GDPの成長率（2次速報値）も、0.1％（年率0.4％）と持ち直しつつあります。

個人消費については、現時点において、名目賃金は上昇基調にあるものの物価上昇のスピードに追い付いていない状況により外食や衣服等への消費意欲が抑制されている等、景気は一時的な足踏み状態にありますが、外国人旅行者によるインバウンド消費の需要は引き続き高く、また2024年の春闘で前年を上回る率の賃上げが期待されており、再び緩やかな回復基調に転じることが予想されます。しかしながら、世界的な金融引き締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクに留意が必要であり、今後の物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に注視する必要があります。

また、当期における不動産投資市場は、マイナス金利政策の解除が先送りされるなど低金利が継続している金融市場及び緩やかな景気回復を背景に、アセットタイプやエリアにより過熱感に差はあるものの、投資家の取得意欲は依然継続しています。

このような環境のもと、本投資法人は新たな物件の売買は行っていないものの、運用する商業施設にお越しいただくお客様とテナントの皆様に御満足いただけるような環境づくりに引き続き注力するとともに、空区画へのテナント誘致、契約期限到来時におけるテナントの入替え、各施設で時流に沿った催事を積極的に開催すること等を通じて、適切な運用資産の管理と収益向上のための施策を行い、安定的な収益の確保に努めてきました。

上記の結果、当期末時点の運用資産38物件の稼働率は99.3％（注）と高水準を維持しています。なお、ヨシヅヤYストア西春店において決算日現在空き床である3階については、テナント入居の実現に伴い契約面積に応じた坪当たり固定賃料が加算されるため、引き続き、リーシングに注力していきます。

また、本投資法人は、2023年10月に2023年GRESBリアルエステイト評価において、総合スコアのグローバル順位により5段階で格付されるGRESBレーティングで「1 Star」を取得しています。さらに、ESG推進のための方針や組織体制などを評価する「マネジメント・コンポーネント」と保有物件での環境パフォーマンスやテナントとの取組み等を評価する「パフォーマンス・コンポーネント」の双方において優れた参加者であることを示す「Green Star」の評価を3年連続で獲得しました。本投資法人及び本資産運用会社は、ESGへの取組みが投資主価値向上に寄

与するという認識のもと、今後も環境負荷低減や地域コミュニティの活性化等の取組みを推進していきます。

（注）稼働率については、決算日現在の「賃貸面積」÷「賃貸可能面積」×100により算出し、小数第2位を四捨五入して記載しています。「ヨシヅヤYストア西春店」は商業棟と住宅棟により構成されています。商業棟はマスターレッシーである株式会社日本エスコン（以下「日本エスコン」といいます。）が株式会社義津屋に対して転貸しており、当該稼働率は決算日現在において空き床となっている3階部分の「賃貸面積」も含めて算出しています。なお、3階部分が空き床であることを考慮し、当該「賃貸面積」を控除して算出した場合のポートフォリオ全体の稼働率は、98.2%となります。

（ウ）資金調達の概要

当期は、2024年1月31日に返済期限の到来した借入金4,610百万円のリファイナンスに当たり、同日付で同額の4,610百万円の借入れを行いました。また、支払金利の固定化を図ることで金利上昇リスクをヘッジするため、当該借入れのうち1,876百万円について金利スワップ契約を締結しています。また、当期末時点の有利子負債残高は33,091百万円、総資産のうち有利子負債が占める割合（以下「LTV」といいます。）は43.8%となっています。

本投資法人は、株式会社格付投資情報センター（R&I）から「A-（安定的）」の発行体格付を取得しており、今後も資金調達の機動性の確保と安定した財務運営を進め、信用力の更なる向上を目指します。

（エ）業績及び分配の概要

前述の運用の結果、当期の業績は、営業収益2,444百万円、営業利益1,274百万円、経常利益1,136百万円、当期純利益1,135百万円となりました。

また、分配金については、本投資法人の規約に定める分配の方針に基づき、投資法人の税制の特例（租税特別措置法（昭和32年法律第26号。その後の改正を含みます。）第67条の15第1項）を適用し、投信法第136条第1項に定める利益の概ね全額である1,135百万円を利益分配金として分配することとし、この結果、投資口1口当たりの分配金は3,227円となりました。

（オ）本投資法人と本資産運用会社のガバナンス体制について

本資産運用会社は、2022年7月15日付で金融庁より行政処分を受けて以来、コンプライアンス宣言採択、経営理念の制定、ガバナンス体制の更なる強化を目的とした物件取得等の運用フローの変更、中部電力株式会社（以下「中部電力」といいます。）からの取締役派遣受入れ、不動産鑑定評価の発注業務ルールの変更、各種規程類やマニュアルの改正、コンプライアンス部による不動産鑑定評価発注業務モニタリングの強化、利益相反に係るコンプライアンス態勢を継続的に向上させるための各種研修及び習熟度テストの実施など様々な施策を実施し、本投資法人の運用にかかるガバナンス体制の構築をしています。なお、前期末時点において、本資産運用会社に対する行政処分は解除されています。

また、2023年10月27日開催の投資主総会において、本投資法人及び本資産運用会社と特別の利害関係を持たない執行役員が新たに選任されたことにより、本投資法人の役員会は、本資産運用会社とは特別の利害関係のない執行役員1名及び監督役員2名により構成される体制となりました。

本投資法人と本資産運用会社は、引き続き上記のガバナンス体制を維持し、更に投資法人の運用体制の健全性を高め、積極的にガバナンス体制の有効性の向上に努めていく方針です。

②次期の見通し

（ア）運用全般に関する見通し

個人消費及び設備投資のいずれにおいても、新型コロナウイルス感染症による規制の緩和によるリバウンド消費の傾向が一巡、物価上昇による購買力の低下、人材不足による供給制約等のマイナス要因があるものの、インバウンド需要の継続、大企業を中心とした企業業績の向上、株式市場の上昇等の要因もあり、引き続き現在の経済状況が継続すると予想されます。しかしながら、物価とりわけ不動産価格の動向や金利や為替の変動等の影響については、従来以上に注視していく必要がある状況にあります。

このような環境のもと、本投資法人は、中長期にわたる安定的収益の確保と資産価値の着実な向上のため、暮らし密着型資産の取得及び適切な運用並びに安定的かつ健全な財務運営を行っていきます。

（イ）賃貸収益の成長性を追求した内部成長

本投資法人は、運用改善に活かすべく、施設利用者及びテナント企業が施設を快適に利用できるよう、満足度調査を実施しています。これを基に、潜在的なニーズを含め、施設の利便性や利用頻度の向上に加え、物件やエリアの認知度の上昇などを目指した施策を立案実行し、保有資産の着実な内部成長を図ります。

ａ．賃貸収益向上の取組み

本投資法人は、賃貸市場や施設全体のテナント構成等を考慮した早期かつ最適なテナント誘致や催事の開催等による集客力及び賃貸収入の向上、賃貸管理に係る各種維持管理費用等の定期的な見直し、テナント及びお客様の満足度向上の取組みの実施等、保有資産ごとに適切な運営管理を実施することにより、ポートフォリオ全体の

賃貸収益の維持向上を目指します。

ｂ．資産価値向上の取組み

本投資法人は、資産を中長期的に保有するに当たり、保有資産の経年劣化や、地域・立地特性及び顧客需要の変化による資産価値の減少は避けられない課題と考えています。日常的な清掃や設備メンテナンスに加え、長期修繕計画に基づく修繕・更新工事の実施、スポンサーと協働した保有資産の建替えやリニューアル、保有資産のブランディング等により物件競争力を向上させ、資産価値の向上を目指します。

（ウ）ポートフォリオの安定性と成長性を追求した外部成長

本投資法人は、総合デベロッパー（注）である日本エスコンの不動産開発力に基づく、保有不動産物件に係る優先交渉権の付与、運用資産の再開発サポート等の強固なスポンサーパイプラインの活用に加え、中部電力グループ（中部電力、その子会社及び関連会社をいいます。ただし、日本エスコン、その子会社及び関連会社は除きます。以下同じです。）との連携による環境配慮技術及びエネルギーコスト低減に関するノウハウの提供を中心とするサポートについて、利益相反管理を徹底した上で最大限活用します。また、本資産運用会社は、本資産運用会社独自の物件取得ルートを充実させることを目的として2023年6月14日付で投資営業部を新設しており、スポンサーである日本エスコン及び中部電力グループに加え、外部の物件情報を継続的に取得することにより、第三者からの良質な物件取得も積極的に行い、本投資法人の資産規模拡大及びポートフォリオの良質化を目指し、着実な外部成長を図ります。

（注）「総合デベロッパー」とは、分譲マンションや戸建住宅、商業施設、ホテル、物流施設等の不動産の多面的な開発事業を展開するデベロッパー、すなわち、開発全般を総合的に事業として取り組む姿勢を持った開発業者であることを言い表す用語として本書において用いています。

（エ）財務方針

本投資法人は、中長期的な安定的収益の確保及び資産価値の着実な向上のため、安定的かつ健全な財務運営を実現するための資金調達を行っていきます。

新投資口の発行は、運用資産の規模の成長と収益性の向上を目的として、LTV、既存投資主の権利の希薄化及びそれに伴う投資口の取引価格の低下等を勘案し、金融環境を踏まえた上で実施を決定します。

資金の借入れ及び投資法人債（短期投資法人債を含みます。）の発行に際しては、資金調達の機動性と財務の安定性のバランス及び取得する不動産の特性等に配慮した資金調達を行います。具体的には、調達方法（借入金・投資法人債）、長期借入比率、固定金利比率、返済期限の分散、担保提供の要否等を検討します。

LTVは、保守的な水準を維持することを基本とし、原則として50％を上限とします。

また、保有するポートフォリオにおける資金需要を常にモニタリングし、的確に把握して、効率的かつ適切なキャッシュ・マネジメントを行うものとします。

③決算後に生じた重要な事実

該当事項はありません。

④運用状況の見通し

2024年7月期及び2025年1月期における本投資法人の運用状況については、以下のとおり見込んでいます。運用状況の前提条件は、後記5ページ記載の「2024年7月期（2024年2月1日～2024年7月31日）及び2025年1月期（2024年8月1日～2025年1月31日）運用状況の予想の前提条件」をご参照ください。

	営業収益（百万円）	営業利益（百万円）	経常利益（百万円）	当期純利益（百万円）	1口当たり分配金（円）（利益超過分配金は含まない）	1口当たり利益超過分配金（円）	1口当たり分配金（円）（利益超過分配金を含む）
2024年7月期（第15期）	2,454	1,232	1,102	1,101	3,130	－	3,130
2025年1月期（第16期）	2,613	1,261	1,118	1,117	3,174	－	3,174

（注）上記の予想値は、一定の前提条件に基づき算出したものであり、今後の不動産等の取得若しくは売却、不動産市場等の推移、金利の変動又は本投資法人を取り巻くその他の状況の変化等により、実際の営業収益、営業利益、経常利益、当期純利益、1口当たり分配金及び1口当たり利益超過分配金は変動する可能性があり、本予想はこれらの額を保証するものではありません。

※2024年7月期（2024年2月1日～2024年7月31日）及び2025年1月期（2024年8月1日～2025年1月31日）
運用状況の予想の前提条件

項目	前提条件
計算期間	◆ 2024年7月期（第15期）（2024年2月1日～2024年7月31日）（182日） ◆ 2025年1月期（第16期）（2024年8月1日～2025年1月31日）（184日）
運用資産	◆ 本投資法人は、運用状況の予想にあたって、2024年1月期までに取得済みの不動産信託受益権（38物件）を保有し続けること、また2025年1月期末までの間に運用資産の変動（新規物件の取得、保有物件の処分等）が生じないことを前提としています。 ◆ 実際には新規物件の取得又は保有物件の処分等により運用資産の変動が生ずる可能性があります。
営業収益	◆ 不動産賃貸事業収益は本書の日付現在効力を有する賃貸借契約の内容等をベースに、テナント動向、市場動向等を勘案して算出しています。 ◆ テナントによる賃料の滞納又は不払いがないことを前提としています。 ◆ 不動産等売却損益の発生がないことを前提としています。 ◆ 水道光熱費収入については、2024年7月期に260百万円、2025年1月期に301百万円を見込んでいます。
営業費用	◆ 主たる営業費用である不動産賃貸事業費用のうち、減価償却費以外の費用については、過去の実績値に基づき、費用の変動要素を考慮して算出しています。 ◆ 固定資産税及び都市計画税等については、2024年7月期に223百万円、2025年1月期に223百万円を見込んでいます。 ◆ 水道光熱費については、2024年7月期に279百万円、2025年1月期に322百万円を見込んでいます。 ◆ 損害保険料については、2024年7月期に10百万円、2025年1月期に10百万円を見込んでいます。 ◆ 建物の修繕費については、本資産運用会社が策定する中長期の修繕計画に基づき、2024年7月期に57百万円、2025年1月期に104百万円を見込んでいます。なお、予想し難い要因に基づく建物の毀損等により修繕費が緊急に発生する可能性があること、一般的に年度による金額の差異が大きくなること及び定期的に発生する金額ではないこと等から、各計算期間の修繕費が予想金額と大きく異なる結果となる可能性があります。 ◆ 減価償却費については、付随費用等を含めて定額法により算出しており、2024年7月期に190百万円、2025年1月期に193百万円を見込んでいます。 ◆ 固定資産の減損に係る会計基準に従い、減損損失が計上されないことを前提としています。
営業外費用	◆ 2024年7月期は、130百万円を想定しており、うち支払利息及びその他借入関連費用として130百万円を見込んでいます。 ◆ 2025年1月期は、143百万円を想定しており、うち支払利息及びその他借入関連費用として143百万円を見込んでいます。
有利子負債	◆ 有利子負債総額は、2024年7月期末時点及び2025年1月期末時点において33,091百万円を前提としています。 ◆ LTVについては、2024年7月期末に43.8%、2025年1月期末に43.7%程度を見込んでいます。 LTVの算出にあたっては、次の算式を使用し、小数第2位を四捨五入しています。 LTV＝有利子負債総額÷総資産額×100
投資口	◆ 本書の日付現在発行済みである投資口351,967口について、2025年1月期末までに新投資口の発行等による投資口数の変動がないことを前提としています。 ◆ 2024年7月期及び2025年1月期の1口当たり分配金（利益超過分配金は含まない）は、2024年7月期及び2025年1月期の予想期末発行済投資口数351,967口により算出しています。
1口当たり分配金（利益超過分配金は含まない）	◆ 1口当たり分配金（利益超過分配金は含まない）は、本投資法人の規約に定める金銭の分配の方針に従い、利益の分配をすることを前提として算出しています。 ◆ 運用資産の異動、テナントの異動等に伴う賃料収入の変動又は予期せぬ修繕の発生等を含む種々の要因により、1口当たり分配金（利益超過分配金は含まない）は変動する可能性があります。
1口当たり利益超過分配金	◆ 本投資法人は、規約上、利益超過分配を実施することは可能ですが、減価償却費に対する資本的支出の占める割合を勘案し、かつ、保守的な財務運営をすべく、現時点では利益超過分配は実施しない予定です。
その他	◆ 法令、税制、会計基準、東京証券取引所の定める上場規則、一般社団法人投資信託協会の定める規則等において、上記の予想数値に影響を与える改正が行われないことを前提としています。 ◆ 一般的な経済動向及び不動産市況等に不測の重大な変化が生じないことを前提としています。

(2) 投資リスク

有価証券報告書（2023年10月27日提出。その後の訂正を含みます。）における「投資リスク」から重要な変更がないため開示を省略しています。

2. 財務諸表

(1) 貸借対照表

（単位：千円）

	前期 2023年7月31日	当期 2024年1月31日
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,318,451	2,308,510
信託現金及び信託預金	3,354,221	3,461,980
営業未収入金	100,249	55,548
前払費用	82,599	88,744
流動資産合計	5,855,522	5,914,784
固定資産		
有形固定資産		
建物	7,063	7,063
減価償却累計額	△1,011	△1,375
建物（純額）	6,052	5,688
信託建物	12,759,582	12,812,723
減価償却累計額	△1,233,647	△1,412,184
信託建物（純額）	11,525,935	11,400,538
信託構築物	146,945	146,945
減価償却累計額	△35,087	△38,672
信託構築物（純額）	111,858	108,273
信託工具、器具及び備品	44,922	64,912
減価償却累計額	△17,485	△22,527
信託工具、器具及び備品（純額）	27,436	42,385
信託土地	57,914,000	57,914,000
有形固定資産合計	69,585,282	69,470,886
無形固定資産		
商標権	502	448
その他	982	165
無形固定資産合計	1,484	614
投資その他の資産		
差入敷金及び保証金	10,000	10,000
長期前払費用	143,059	134,650
繰延税金資産	2	3
投資その他の資産合計	153,061	144,653
固定資産合計	69,739,829	69,616,154
資産合計	75,595,352	75,530,938

（単位：千円）

	前期 2023年7月31日	当期 2024年1月31日
負債の部		
流動負債		
営業未払金	199,417	101,431
1年内返済予定の長期借入金	4,610,000	2,386,000
未払金	15,698	73,564
未払費用	163,112	165,140
未払法人税等	655	676
未払消費税等	31,343	27,080
前受金	334,062	331,039
預り金	2,592	599
流動負債合計	5,356,882	3,085,533
固定負債		
長期借入金	28,481,000	30,705,000
信託預り敷金及び保証金	2,510,386	2,497,129
固定負債合計	30,991,386	33,202,129
負債合計	36,348,269	36,287,662
純資産の部		
投資主資本		
出資総額	38,107,208	38,107,208
剰余金		
当期未処分利益又は当期未処理損失（△）	1,139,874	1,136,067
剰余金合計	1,139,874	1,136,067
投資主資本合計	39,247,083	39,243,276
純資産合計	※1 39,247,083	※1 39,243,276
負債純資産合計	75,595,352	75,530,938

（2）損益計算書

（単位：千円）

	前期 自 2023年2月 1日 至 2023年7月31日	当期 自 2023年8月 1日 至 2024年1月31日
営業収益		
賃貸事業収入	※1 2,193,842	※1 2,189,210
その他賃貸事業収入	※1 303,889	※1 255,375
営業収益合計	2,497,731	2,444,586
営業費用		
賃貸事業費用	※1 1,034,941	※1 947,809
資産運用報酬	137,049	139,141
資産保管手数料	3,664	3,648
一般事務委託手数料	11,698	12,209
役員報酬	2,700	4,500
公租公課	9,214	10,592
その他営業費用	42,962	51,776
営業費用合計	1,242,231	1,169,677
営業利益	1,255,499	1,274,908
営業外収益		
受取利息	27	27
未払分配金除斥益	719	729
営業外収益合計	746	756
営業外費用		
支払利息	80,653	81,326
融資関連費用	33,686	57,795
その他	1,370	－
営業外費用合計	115,709	139,122
経常利益	1,140,536	1,136,542
税引前当期純利益	1,140,536	1,136,542
法人税、住民税及び事業税	659	680
法人税等調整額	26	△1
法人税等合計	686	679
当期純利益	1,139,850	1,135,862
前期繰越利益	24	205
当期未処分利益又は当期未処理損失（△）	1,139,874	1,136,067

(3) 投資主資本等変動計算書

前期（自 2023年2月1日　至 2023年7月31日）

（単位：千円）

	投資主資本				純資産合計
	出資総額	剰余金		投資主資本合計	
		当期未処分利益又は当期未処理損失（△）	剰余金合計		
当期首残高	38,107,208	1,859,465	1,859,465	39,966,674	39,966,674
当期変動額					
剰余金の配当	－	△1,859,441	△1,859,441	△1,859,441	△1,859,441
当期純利益	－	1,139,850	1,139,850	1,139,850	1,139,850
当期変動額合計	－	△719,591	△719,591	△719,591	△719,591
当期末残高	※1 38,107,208	1,139,874	1,139,874	39,247,083	39,247,083

当期（自 2023年8月1日　至 2024年1月31日）

（単位：千円）

	投資主資本				純資産合計
	出資総額	剰余金		投資主資本合計	
		当期未処分利益又は当期未処理損失（△）	剰余金合計		
当期首残高	38,107,208	1,139,874	1,139,874	39,247,083	39,247,083
当期変動額					
剰余金の配当	－	△1,139,669	△1,139,669	△1,139,669	△1,139,669
当期純利益	－	1,135,862	1,135,862	1,135,862	1,135,862
当期変動額合計	－	△3,806	△3,806	△3,806	△3,806
当期末残高	※1 38,107,208	1,136,067	1,136,067	39,243,276	39,243,276

（4）金銭の分配に係る計算書

	前期 自 2023年2月 1日 至 2023年7月31日	当期 自 2023年8月 1日 至 2024年1月31日
Ⅰ．当期未処分利益	1,139,874,269円	1,136,067,579円
Ⅱ．分配金の額	1,139,669,146円	1,135,797,509円
（投資口1口当たりの分配金の額）	（3,238円）	（3,227円）
Ⅲ．次期繰越利益	205,123円	270,070円
分配金の額の算出方法	本投資法人の規約第36条第1項に定める金銭の分配の方針に従い、分配金の額は利益の金額を限度とし、かつ租税特別措置法第67条の15に規定されている本投資法人の配当可能利益の金額の100分の90に相当する金額を超えるものとしています。 かかる方針に従い、投信法第136条第1項に定める利益の概ね全額である1,139,669,146円を利益分配金として分配することとしました。 なお、本投資法人の規約第36条第2項に定める利益を超えた金銭の分配は行いません。	本投資法人の規約第36条第1項に定める金銭の分配の方針に従い、分配金の額は利益の金額を限度とし、かつ租税特別措置法第67条の15に規定されている本投資法人の配当可能利益の金額の100分の90に相当する金額を超えるものとしています。 かかる方針に従い、投信法第136条第1項に定める利益の概ね全額である1,135,797,509円を利益分配金として分配することとしました。 なお、本投資法人の規約第36条第2項に定める利益を超えた金銭の分配は行いません。

(5) キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前期 自 2023年2月 1日 至 2023年7月31日	当期 自 2023年8月 1日 至 2024年1月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	1,140,536	1,136,542
減価償却費	184,156	188,398
受取利息	△27	△27
支払利息	80,653	81,326
営業未収入金の増減額（△は増加）	△44,642	44,701
前払費用の増減額（△は増加）	△17,625	△6,144
長期前払費用の増減額（△は増加）	△1,748	8,409
営業未払金の増減額（△は減少）	59,969	△97,986
未払金の増減額（△は減少）	△58,970	60,310
未払費用の増減額（△は減少）	△3,141	1,935
未払消費税等の増減額（△は減少）	11,654	△4,262
前受金の増減額（△は減少）	2,032	△3,023
その他	2,324	△1,992
小計	1,355,171	1,408,186
利息の受取額	27	27
利息の支払額	△80,656	△81,234
法人税等の支払額	△1,207	△659
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,273,334	1,326,319
投資活動によるキャッシュ・フロー		
信託有形固定資産の取得による支出	△101,213	△73,131
信託預り敷金及び保証金の受入による収入	29,744	4,672
信託預り敷金及び保証金の返還による支出	△29,778	△17,929
投資活動によるキャッシュ・フロー	△101,247	△86,388
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	－	4,610,000
長期借入金の返済による支出	－	△4,610,000
分配金の支払額	△1,858,233	△1,142,112
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,858,233	△1,142,112
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△686,147	97,818
現金及び現金同等物の期首残高	6,358,820	5,672,672
現金及び現金同等物の期末残高	※1 5,672,672	※1 5,770,490

(6) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(7) 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 固定資産の減価償却の方法	(1) 有形固定資産（信託財産を含む） 定額法を採用しています。なお、有形固定資産の耐用年数は以下のとおりです。 建物　3年～64年 構築物　12年～63年 工具、器具及び備品　2年～10年 (2) 無形固定資産 定額法を採用しています。 (3) 長期前払費用 定額法を採用しています。
2. 収益及び費用の計上基準	(1) 収益に関する計上基準 本投資法人の顧客との契約から生じる収益に関する主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりです。 ① 不動産等の売却 不動産等の売却については、不動産売却に係る契約に定められた引渡義務を履行することにより、顧客である買主が当該不動産等の支配を獲得した時点で収益計上を行います。 ② 水道光熱費収入 水道光熱費収入については、不動産等の賃貸借契約及び付随する合意内容に基づき、顧客である賃借人に対する電気、水道等の供給に応じて収益計上を行います。 (2) 固定資産税等の処理方法 保有する不動産にかかる固定資産税、都市計画税及び償却資産税等については、賦課決定された税額のうち当期に対応する額を賃貸事業費用として費用処理する方法を採用しています。 なお、不動産又は不動産を信託財産とする信託受益権の取得に伴い、精算金として譲渡人に支払った初年度の固定資産税等相当額については、費用に計上せず当該不動産等の取得原価に算入しています。前期及び当期において不動産等の取得原価に算入した固定資産税等相当額はありません。
3. ヘッジ会計の方法	(1) ヘッジ会計の方法 金利スワップについての特例処理の要件を満たしているため、特例処理を採用しています。 (2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段　金利スワップ取引 ヘッジ対象　借入金金利 (3) ヘッジ方針 本投資法人はデリバティブ管理規程に基づき投資法人規約に規定するリスクをヘッジする目的でデリバティブ取引を行っています。 (4) ヘッジの有効性評価の方法 金利スワップは特例処理の要件を満たしているため、有効性の評価は省略しています。
4. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金及び信託現金、随時引き出し可能な預金及び信託預金並びに容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっています。

5．その他財務諸表作成のための基礎となる事項	(1) 不動産等を信託財産とする信託受益権に関する会計処理方法 保有する不動産等を信託財産とする信託受益権については、信託財産内の全ての資産及び負債勘定並びに信託財産に生じた全ての収益及び費用勘定について、貸借対照表及び損益計算書の該当勘定科目に計上しています。 なお、該当勘定科目に計上した信託財産のうち重要性がある下記の科目については、貸借対照表において区分掲記しています。 ① 信託現金及び信託預金 ② 信託建物、信託構築物、 信託工具、器具及び備品、信託土地 ③ 信託預り敷金及び保証金 (2) 控除対象外消費税等の処理方法 固定資産等に係る控除対象外消費税は個々の資産の取得原価に算入しています。

(8) 重要な会計上の見積りに関する注記

固定資産の減損

1．財務諸表に計上した金額

（単位：千円）

	前期 2023年7月31日	当期 2024年1月31日
有形固定資産	69,585,282	69,470,886
無形固定資産	1,484	614
減損損失	－	－

2．識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

本投資法人は、固定資産の減損に係る会計基準に従い、収益性の低下により投資額の回収が見込めなくなった場合、固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額する会計処理を適用しています。会計処理の適用に当たっては、本投資法人が保有する各物件を一つの資産グループとし、継続的な営業赤字、市場価格の著しい下落、経営環境の著しい悪化等によって減損の兆候があると認められる場合に減損損失の認識の要否を判定します。

減損損失を認識するかどうかの検討には将来キャッシュ・フローの見積金額を用い、減損損失の認識が必要と判断された場合には、帳簿価額を外部の不動産鑑定評価等に基づく回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上します。

将来キャッシュ・フローの算定にあたっては、その前提となる賃料、稼働率、賃貸事業費用等について、市場の動向、類似不動産の取引事例等を総合的に勘案の上決定します。

各物件の賃料、稼働率、賃貸事業費用等は、不動産賃貸市場等の動向の影響を受ける可能性があります。そのため、これらを含む見積りの前提に変更が生じた場合には、翌期の本投資法人の財産及び損益の状況に影響を与える可能性があります。

(9) 財務諸表に関する注記

［貸借対照表に関する注記］

（単位：千円）

	前期 2023年7月31日	当期 2024年1月31日
※1. 投資信託及び投資法人に関する法律第67条第4項に定める最低純資産額	50,000	50,000

［損益計算書に関する注記］

（単位：千円）

	前期 自 2023年2月 1日 至 2023年7月31日	当期 自 2023年8月 1日 至 2024年1月31日
※1. 不動産賃貸事業損益の内訳		
A．不動産賃貸事業収益		
賃貸事業収入		
賃料収入	1,061,916	1,059,025
地代収入	824,893	824,893
共益費収入	120,312	121,647
その他の賃貸収入	186,719	183,643
計	2,193,842	2,189,210
その他賃貸事業収入		
水道光熱費収入	249,379	246,246
その他の収入	54,509	9,129
計	303,889	255,375
不動産賃貸事業収益合計	2,497,731	2,444,586
B．不動産賃貸事業費用		
賃貸事業費用		
管理業務費	216,963	213,958
信託報酬	9,177	9,177
水道光熱費	263,666	250,703
損害保険料	10,457	11,037
修繕費	54,238	48,735
公租公課	217,391	217,363
減価償却費	183,285	187,527
その他賃貸事業費用	79,761	9,306
不動産賃貸事業費用合計	1,034,941	947,809
C．不動産賃貸事業損益（A－B）	1,462,790	1,496,776

（表示方法の変更）

前期において、独立掲記していた「保険金収入」及び「損害賠償金」は、金額的重要性が乏しくなったため、当期より「その他の収入」及び「その他賃貸事業費用」にそれぞれ含めて表示しています。

この結果、前期において「保険金収入」及び「損害賠償金」にそれぞれ表示していた42,366千円及び70,229千円は、「その他の収入」及び「その他賃貸事業費用」として組み替えています。

［投資主資本等変動計算書に関する注記］

※1．発行可能投資口総口数及び発行済投資口の総口数

	前期 自 2023年2月 1日 至 2023年7月31日	当期 自 2023年8月 1日 至 2024年1月31日
発行可能投資口総口数	10,000,000口	10,000,000口
発行済投資口の総口数	351,967口	351,967口

［キャッシュ・フロー計算書に関する注記］

※1．現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

（単位：千円）

	前期 自 2023年2月 1日 至 2023年7月31日	当期 自 2023年8月 1日 至 2024年1月31日
現金及び預金	2,318,451	2,308,510
信託現金及び信託預金	3,354,221	3,461,980
現金及び現金同等物	5,672,672	5,770,490

［金融商品に関する注記］

1．金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

本投資法人は、運用資産の着実な成長並びに効率的な運用及び運用の安定性に資するため、金融機関からの借入れ、投資法人債の発行又は新投資口の発行等により、バランスのとれた資金調達を行います。

金融機関からの借入れ及び投資法人債の発行に際しては、資金調達の機動性と財務の安定性のバランス、並びに取得する不動産の特性等に配慮した資金調達を行います。具体的には調達方法、長期借入比率、固定金利比率、返済期限の分散、担保提供の要否等を検討します。借入れを実施する場合、借入先は金融商品取引法に規定する適格機関投資家（ただし、租税特別措置法第67条の15に規定する機関投資家に限ります。）に限るものとします。

新投資口の発行は、運用資産の規模の成長と収益性の向上を目的として、LTV、既存投資主の権利の希薄化及びそれに伴う投資口の取引価格の低下等を勘案し、金融環境を踏まえた上で実施を決定します。

本投資法人に係る負債から生じる金利変動リスクその他のリスクをヘッジすることを目的としてデリバティブ取引を行うことがありますが、投機的な取引は行いません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

借入金は、主に資産の取得資金、債務の返済資金の調達を目的とします。借入金は、弁済期の到来時に借換えを行うことが出来ないリスク、並びに支払金利の上昇リスク等に晒されますが、調達先の分散及び返済期日の分散を図るとともに、投資口の発行等バランスの取れた資金調達を検討することにより、リスクの低減を図ります。加えて、金利の動向を注視し、LTVの適切なコントロールにより、金利上昇が本投資法人の運営に与えるリスクを管理します。

本投資法人は、借入金の金利変動リスクをヘッジするため、デリバティブ取引（金利スワップ取引）により、変動金利による資金調達の支払利息を実質固定化する取引を行っています。なお、ヘッジ会計の方法、ヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性評価の方法については、前記「（7）重要な会計方針に係る事項に関する注記　3．ヘッジ会計の方法」をご参照ください。

デリバティブ取引については、本投資法人の定めるデリバティブ管理規程に基づきリスク管理を行っています。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等を用いた場合、当該価額が異なる場合もあります。また、後記「デリバティブ取引に関する注記」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2023年7月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、以下のとおりです。なお、「現金及び預金」、「信託現金及び信託預金」は現金及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、注記を省略しています。また、「信託預り敷金及び保証金」は重要性が乏しいため、注記を省略しています。

（単位:千円）

	貸借対照表計上額	時価（注1）	差額
(1)1年内返済予定の長期借入金	4,610,000	4,610,000	－
(2)長期借入金	28,481,000	28,481,000	－
負債合計	33,091,000	33,091,000	－

2024年1月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、以下のとおりです。なお、「現金及び預金」、「信託現金及び信託預金」は現金及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、注記を省略しています。また、「信託預り敷金及び保証金」は重要性が乏しいため、注記を省略しています。

（単位:千円）

	貸借対照表計上額	時価（注1）	差額
(1)1年内返済予定の長期借入金	2,386,000	2,386,000	－
(2)長期借入金	30,705,000	30,763,881	58,881
負債合計	33,091,000	33,149,881	58,881
(3)デリバティブ取引	－	－	－

（注1）金融商品の時価の算定方法及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 1年内返済予定の長期借入金、(2) 長期借入金

変動金利によるものであり、短期間で市場金利を反映し、時価は帳簿価額に近似していると言えることから、当該帳簿価額によっています。ただし、変動金利による長期借入金で金利スワップの特例処理の対象としているものは、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入れを行った場合に適用される合理的に見積られる利率で割り引いて算定する方法によっています。

(3) デリバティブ取引

後記「デリバティブ取引に関する注記」をご参照ください。

（注2）借入金の決算日（2023年7月31日）後の返済予定額

（単位：千円）

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金	4,610,000	5,273,000	10,684,000	7,559,000	4,965,000	－
合計	4,610,000	5,273,000	10,684,000	7,559,000	4,965,000	－

借入金の決算日（2024年1月31日）後の返済予定額

（単位：千円）

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金	2,386,000	11,375,700	9,600,700	7,852,000	1,876,600	－
合計	2,386,000	11,375,700	9,600,700	7,852,000	1,876,600	－

［デリバティブ取引に関する注記］

1. ヘッジ会計が適用されていないもの

前期(2023年7月31日)及び当期(2024年1月31日)において、該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているもの

前期(2023年7月31日)において、該当事項はありません。

当期(2024年1月31日)

（単位：千円）

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等（注1）		時価	当該時価の算定方法
				うち1年超		
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	1,876,600	1,876,600	（注2）	－
合　計			1,876,600	1,876,600		

（注1）金利スワップ取引の契約額等は、想定元本に基づいて記載しています。
（注2）金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しています。

［税効果会計に関する注記］

1．繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

（単位：千円）

	前期 2023年7月31日	当期 2024年1月31日
（繰延税金資産）		
未払事業税損金不算入額	2	3
繰延税金資産合計	2	3
（繰延税金資産の純額）	2	3

2．法定実効税率と税効果会計適用後の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

（単位：%）

	前期 2023年7月31日	当期 2024年1月31日
法定実効税率	31.46	31.46
（調整）		
支払分配金の損金算入額	△31.44	△31.44
その他	0.04	0.04
税効果会計適用後の法人税等の負担率	0.06	0.06

［賃貸等不動産に関する注記］

本投資法人では、商業施設及びその底地を主たる用途とする賃貸用の不動産等資産を保有しています。これら賃貸等不動産に係る貸借対照表計上額、期中増減額及び期末時価は、以下のとおりです。

（単位：千円）

		前期 自 2023年2月 1日 至 2023年7月31日	当期 自 2023年8月 1日 至 2024年1月31日
貸借対照表計上額（注1）	期首残高	69,667,355	69,585,282
	期中増減額（注2）	△82,072	△114,396
	期末残高	69,585,282	69,470,886
期末時価（注3）		72,713,900	72,780,200

（注1）貸借対照表計上額は、取得原価及び取得に伴う付帯費用を含みます。
（注2）期中増減額のうち、前期の主な増加額は、tonarie南千里等の資本的支出（合計101,213千円）によるものであり、主な減少額は、減価償却費（183,285千円）によるものです。当期の主な増加額は、tonarie南千里等の資本的支出（合計73,131千円）によるものであり、主な減少額は、減価償却費（187,527千円）によるものです。
（注3）期末時価は、社外の不動産鑑定士による鑑定評価額を記載しています。

なお、賃貸等不動産に関する損益については、「損益計算書に関する注記」に記載のとおりです。

［収益認識に関する注記］

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前期（自 2023年2月1日　至 2023年7月31日）

（単位：千円）

	顧客との契約から生じる収益（注1）	外部顧客への売上高
不動産等売却収入	－	－
水道光熱費収入（注2）	249,379	249,379
その他	－	2,248,351
合　計	249,379	2,497,731

（注1）企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の対象となる賃貸事業収入等は収益認識会計基準の適用外となるため、「顧客との契約から生じる収益」には含めていません。なお、主な顧客との契約から生じる収益は不動産等売却収入及び水道光熱費収入です。

（注2）水道光熱費収入については、不動産等の賃貸借契約及び付随する合意内容に基づき、顧客である賃借人に対する電気、水道等の供給に応じて収益計上した額を記載しています。

当期（自 2023年8月1日　至 2024年1月31日）

（単位：千円）

	顧客との契約から生じる収益（注1）	外部顧客への売上高
不動産等売却収入	－	－
水道光熱費収入（注2）	246,246	246,246
その他	－	2,198,339
合　計	246,246	2,444,586

（注1）企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の対象となる賃貸事業収入等は収益認識会計基準の適用外となるため、「顧客との契約から生じる収益」には含めていません。なお、主な顧客との契約から生じる収益は不動産等売却収入及び水道光熱費収入です。

（注2）水道光熱費収入については、不動産等の賃貸借契約及び付随する合意内容に基づき、顧客である賃借人に対する電気、水道等の供給に応じて収益計上した額を記載しています。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

前期（自 2023年2月1日　至 2023年7月31日）

重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載の通りです。

当期（自 2023年8月1日　至 2024年1月31日）

重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載の通りです。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当計算期間末において存在する顧客との契約から翌計算期間以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

（1）契約資産及び契約負債の残高等

（単位：千円）

	前期 自 2023年2月 1日 至 2023年7月31日	当期 自 2023年8月 1日 至 2024年1月31日
顧客との契約から生じた債権（期首残高）	41,492	44,602
顧客との契約から生じた債権（期末残高）	44,602	43,596
契約資産（期首残高）	－	－
契約資産（期末残高）	－	－
契約負債（期首残高）	－	－
契約負債（期末残高）	－	－

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

該当事項はありません。

水道光熱費収入については、期末までに履行が完了した部分に対する、顧客である賃借人にとっての価値に直接対応する対価の額を顧客から受け取る権利を有していることから、収益認識に関する会計基準の適用指針第19項に従って、請求する権利を有している金額で収益を認識しています。従って、収益認識に関する会計基準第80-22項(2)の定めを適用し、残存履行義務に配分した取引価格の注記には含めていません。

［1口当たり情報に関する注記］

	前期 自 2023年2月 1日 至 2023年7月31日	当期 自 2023年8月 1日 至 2024年1月31日
1口当たり純資産額	111,507円	111,497円
1口当たり当期純利益	3,239円	3,227円

1口当たり当期純利益は、当期純利益を期間の日数による加重平均投資口数で除することにより算定し、小数点未満を四捨五入して記載しています。

潜在投資口調整後1口当たり当期純利益については、潜在投資口がないため記載していません。

（注）1口当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりです。

		前期 自 2023年2月 1日 至 2023年7月31日	当期 自 2023年8月 1日 至 2024年1月31日
当期純利益	（千円）	1,139,850	1,135,862
普通投資主に帰属しない金額	（千円）	－	－
普通投資口に係る当期純利益	（千円）	1,139,850	1,135,862
期中平均投資口数	（口）	351,967	351,967

［重要な後発事象に関する注記］

該当事項はありません。

（開示の省略）

リース取引等に関する注記事項については、決算短信における開示の必要性が大きくないと考えられるため開示を省略します。

(10) 発行済投資口の総口数の増減

2024年1月31日現在までの最近5年間における発行済投資口の総口数及び出資総額の増減は以下のとおりです。

年月日	摘要	発行済投資口の総口数(口)		出資総額（百万円）		備考
		増減	残高	増減	残高	
2019年2月12日	公募増資	188,351	237,000	18,319	22,941	(注1)
2020年2月3日	公募増資	43,792	280,792	5,236	28,177	(注2)
2020年2月26日	第三者割当増資	2,190	282,982	261	28,439	(注3)
2021年8月2日	公募増資	65,700	348,682	9,207	37,646	(注4)
2021年8月24日	第三者割当増資	3,285	351,967	460	38,107	(注5)

（注1）特定資産の取得資金の調達を目的として、1口当たり発行価格101,000円（発行価額97,263円）にて、公募により新投資口を発行しました。

（注2）特定資産の取得資金の調達を目的として、1口当たり発行価格124,029円（発行価額119,576円）にて、公募により新投資口を発行しました。

（注3）将来の特定資産の取得資金又は借入金の返済資金の調達を目的として、1口当たり発行価額119,576円にて、第三者割当により新投資口を発行しました。

（注4）特定資産の取得資金の調達を目的として、1口当たり発行価格145,282円（発行価額140,141円）にて、公募により新投資口を発行しました。

（注5）将来の特定資産の取得資金又は借入金の返済資金の調達を目的として、1口当たり発行価額140,141円にて、第三者割当により新投資口を発行しました。

3. 参考情報

(1) 運用資産等の価格に関する情報

①投資状況

資産の種類	地域等 (注1)	第13期 2023年7月31日現在		第14期 2024年1月31日現在	
		保有総額 (百万円)(注2)	対総資産比率 (%)(注3)	保有総額 (百万円)(注2)	対総資産比率 (%)(注3)
不動産	中部圏	6	0.0	5	0.0
不動産　計		6	0.0	5	0.0
信託不動産	北海道圏	1,310	1.7	1,310	1.7
	首都圏	7,744	10.2	7,729	10.2
	中部圏	5,030	6.7	5,000	6.6
	近畿圏	34,308	45.4	34,267	45.4
	九州圏	15,140	20.0	15,132	20.0
	その他	6,044	8.0	6,024	8.0
信託不動産　計		69,579	92.0	69,465	92.0
預金・その他の資産		6,010	8.0	6,060	8.0
資産総額		75,595	100.0	75,530	100.0

	金額 (百万円)	対総資産比率 (%)(注3)	金額 (百万円)	対総資産比率 (%)(注3)
負債総額	36,348	48.1	36,287	48.0
純資産総額	39,247	51.9	39,243	52.0

(注1) 当期より、「地域等」は前記「1.運用状況　(1) 運用状況　①当期の概況　(ア) 投資法人の主な推移　(注6) 」の内容に合わせて記載しています。
(注2) 「保有総額」は各決算日現在における貸借対照表計上額によっており、百万円未満を切捨てて記載しています。
(注3) 「対総資産比率」は小数第2位を四捨五入して記載しています。

②投資資産

(ア) 投資有価証券の主要銘柄

該当事項はありません。

(イ) 投資不動産物件

投資不動産については、信託受益権を通じて保有する資産をあわせて、後記「(ウ) その他投資資産の主要なもの」に一括表記しています。

（ウ）その他投資資産の主要なもの

a.保有資産の概要

本投資法人が保有する信託受益権の信託財産たる不動産の概要は、以下のとおりです。

（2024年1月31日現在）

物件番号	物件名称	所在地	所有形態（注1）	取得価格（百万円）（注2）	帳簿価額（百万円）（注3）	期末算定価額（百万円）（注4）	鑑定評価機関
11201	ヤマダ電機テックランド札幌白石店（底地）	北海道札幌市	信託受益権	1,300	1,310	1,330	株式会社谷澤総合鑑定所
13101	あすみが丘ブランニューモール	千葉県千葉市	信託受益権	3,200	3,161	3,200	株式会社谷澤総合鑑定所
	あすみが丘ブランニューモール（底地）（注5）					① 143 ② 150	
13102	西白井駅前プラザ	千葉県白井市	信託受益権	451	454	470	大和不動産鑑定株式会社
13201	ケーズデンキおゆみ野店（底地）	千葉県千葉市	信託受益権	2,710	2,737	2,890	JLL森井鑑定株式会社
13202	ニトリ土浦店（底地）	茨城県土浦市	信託受益権	999	1,007	1,100	JLL森井鑑定株式会社
13203	ニトリ今市店（底地）	栃木県日光市	信託受益権	363	368	410	JLL森井鑑定株式会社
15101	ヨシヅヤYストア西春店（注6）	愛知県北名古屋市	信託受益権及び附属設備等	4,610	4,522	2,260	大和不動産鑑定株式会社
15201	マックスバリュ桔梗が丘東店（底地）	三重県名張市	信託受益権	477	483	542	JLL森井鑑定株式会社
16101	tonarie南千里	大阪府吹田市	信託受益権	7,200	7,295	8,170	株式会社谷澤総合鑑定所
16102	tonarie清和台	兵庫県川西市	信託受益権	3,290	3,175	3,350	大和不動産鑑定株式会社
16103	tonarie大和高田（持分50%）（注7）	奈良県大和高田市	信託受益権	4,150	4,042	3,985	JLL森井鑑定株式会社
16104	tonarie栂・美木多	大阪府堺市	信託受益権	6,986	6,834	6,970	大和不動産鑑定株式会社
16201	ラ・ムー北津守店（底地）	大阪府大阪市	信託受益権	1,270	1,284	1,480	JLL森井鑑定株式会社
16202	ケーズデンキ西神戸店（底地）	兵庫県神戸市	信託受益権	2,133	2,154	2,470	JLL森井鑑定株式会社
16203	山陽マルナカ水谷店（底地）	兵庫県神戸市	信託受益権	1,430	1,443	1,540	JLL森井鑑定株式会社
16204	TSUTAYA堺南店（底地）	大阪府堺市	信託受益権	946	955	1,040	JLL森井鑑定株式会社
16205	ライフ大仙店（底地）	大阪府堺市	信託受益権	2,733	2,758	3,070	大和不動産鑑定株式会社
16206	トライアル近江八幡店（底地）	滋賀県近江八幡市	信託受益権	1,010	1,019	1,110	JLL森井鑑定株式会社
16207	クスリのアオキ斑鳩店（底地）（注8）	奈良県生駒郡	信託受益権	711	718	① 702 ② 29	JLL森井鑑定株式会社
16208	ドラッグユタカ向日上植野店（底地）	京都府向日市	信託受益権	460	464	477	JLL森井鑑定株式会社
16209	ウエルシア尼崎武庫元町店（底地）	兵庫県尼崎市	信託受益権	565	571	577	株式会社谷澤総合鑑定所
16210	ココカラファイン寝屋川公園店（底地）	大阪府寝屋川市	信託受益権	702	709	719	株式会社谷澤総合鑑定所
16211	ENEOS伊川谷SS店（底地）	兵庫県神戸市	信託受益権	530	535	531	株式会社谷澤総合鑑定所
16212	ゲオ彦根高宮店（底地）	滋賀県彦根市	信託受益権	300	304	305	株式会社谷澤総合鑑定所
18101	シュロアモール長嶺	熊本県熊本市	信託受益権	4,600	4,595	4,500	JLL森井鑑定株式会社
18201	ミスターマックス春日（底地）	福岡県春日市	信託受益権	3,387	3,428	3,970	株式会社谷澤総合鑑定所
18202	ユニクロ春日（底地）	福岡県春日市	信託受益権	595	601	677	株式会社谷澤総合鑑定所
18203	Avail.しまむら春日（底地）	福岡県春日市	信託受益権	863	874	1,110	株式会社谷澤総合鑑定所

物件番号	物件名称	所在地	所有形態（注1）	取得価格（百万円）（注2）	帳簿価額（百万円）（注3）	期末算定価額（百万円）（注4）	鑑定評価機関
18204	au-SoftBank春日（底地）	福岡県春日市	信託受益権	143	145	161	株式会社谷澤総合鑑定所
18205	くら寿司春日（底地）	福岡県春日市	信託受益権	261	264	306	株式会社谷澤総合鑑定所
18206	ドコモショップ春日（底地）	福岡県春日市	信託受益権	160	163	183	株式会社谷澤総合鑑定所
18207	こんぴら丸春日（底地）	福岡県春日市	信託受益権	236	239	266	株式会社谷澤総合鑑定所
18208	ワンカルビ春日（底地）	福岡県春日市	信託受益権	236	239	266	株式会社谷澤総合鑑定所
18209	資さん春日（底地）	福岡県春日市	信託受益権	401	405	421	株式会社谷澤総合鑑定所
18210	ナフコ春日（底地）	福岡県春日市	信託受益権	2,631	2,666	3,480	株式会社谷澤総合鑑定所
18211	ケーズデンキ春日（底地）	福岡県春日市	信託受益権	1,487	1,506	1,870	株式会社谷澤総合鑑定所
19101	フジグランナタリー	広島県廿日市市	信託受益権	3,950	3,888	4,100	大和不動産鑑定株式会社
19201	ケーズデンキ倉敷店（底地）	岡山県倉敷市	信託受益権	2,121	2,136	2,450	JLL森井鑑定株式会社
	合　計			69,604	69,470	72,780	

（注1）「信託受益権」とは不動産を主な信託財産とする信託受益権を表しています。
（注2）「取得価格」は、当該不動産等の取得に要した諸費用(売買媒介手数料、公租公課等)を含まない金額（売買契約書等に記載された売買価格）を記載しています。
（注3）「帳簿価額」は、記載未満を切捨てて表示しています。
（注4）「期末算定価額」は、2024年1月31日を調査の時点として本投資法人の規約及び一般社団法人投資信託協会の定める規則に基づき、不動産鑑定士による鑑定評価額を記載しています。
（注5）「あすみが丘プランニューモール（底地）」は株式会社あきんどスシロー及び日本マクドナルドホールディングス株式会社の2社の借地人と事業用定期借地権設定契約が締結されており、「期末算定価額」は、株式会社あきんどスシローに係る部分を①、日本マクドナルドホールディングス株式会社に係る部分を②として、それぞれ記載しています。
（注6）「ヨシヅヤYストア西春店」の帳簿価額には、商業施設に付随する附属設備等の帳簿価額が含まれています。
（注7）「tonarie大和高田」については、保有資産が信託受益権の50%準共有持分であることに鑑みて、「帳簿価額」及び「期末算定価額」は準共有持分割合に相当する金額を記載しています。
（注8）「クスリのアオキ斑鳩店（底地）」は株式会社クスリのアオキ及び株式会社イカリトンボの2社の借地人と事業用定期借地権設定契約が締結されており、「取得価格」及び「帳簿価額」は2社の借地人に係る金額を合算して記載しています。また、「期末算定価額」は、株式会社クスリのアオキに係る部分を①、株式会社イカリトンボに係る部分を②として、それぞれ記載しています。

b.賃貸借の概要

保有不動産に係るテナント総数、賃貸可能面積、賃貸面積、稼働率、不動産賃貸事業収益及び総賃料収入比率は、以下のとおりです。

（2024年1月31日現在）

物件番号	物件名称	テナント総数（注1）	賃貸可能面積(㎡)（注2）	賃貸面積(㎡)（注2）	稼働率(%)（注3）	不動産賃貸事業収益（百万円）（注4）	総賃料収入比率(%)
11201	ヤマダ電機テックランド札幌白石店（底地）	1	8,154.00	8,154.00	100.0	非開示（注6）	非開示（注6）
13101	あすみが丘ブランニューモール	28	22,516.59	19,767.24	87.8	247	10.1
	あすみが丘ブランニューモール（底地）	2	2,672.67	2,672.67	100.0		
13102	西白井駅前プラザ	4	969.72	969.72	100.0	19	0.8
13201	ケーズデンキおゆみ野店（底地）	1	23,379.50	23,379.50	100.0	70	2.9
13202	ニトリ土浦店（底地）	1	10,312.00	10,312.00	100.0	非開示（注6）	非開示（注6）
13203	ニトリ今市店（底地）	1	10,236.00	10,236.00	100.0	非開示（注6）	非開示（注6）
15101	ヨシヅヤYストア西春店	56	26,432.58	26,366.38	99.7	114	4.7
15201	マックスバリュ桔梗が丘東店（底地）	1	9,025.88	9,025.88	100.0	非開示（注6）	非開示（注6）
16101	tonarie南千里	45	7,594.00	7,471.45	98.4	328	13.4
16102	tonarie清和台	32	8,798.01	8,798.01	100.0	169	7.0
16103	tonarie大和高田（持分50%）	66	14,414.75	14,414.75	100.0	178	7.3
16104	tonarie栂・美木多	31	8,471.24	8,471.24	100.0	258	10.6
16201	ラ・ムー北津守店（底地）	1	11,677.03	11,677.03	100.0	38	1.6
16202	ケーズデンキ西神戸店（底地）	1	9,787.68	9,787.68	100.0	62	2.5
16203	山陽マルナカ水谷店（底地）	1	9,610.80	9,610.80	100.0	非開示（注6）	非開示（注6）
16204	TSUTAYA堺南店（底地）	1	4,406.04	4,406.04	100.0	21	0.9
16205	ライフ大仙店（底地）	1	9,264.48	9,264.48	100.0	72	2.9
16206	トライアル近江八幡店（底地）	1	17,268.43	17,268.43	100.0	非開示（注6）	非開示（注6）
16207	クスリのアオキ斑鳩店（底地）（注5）	2	8,486.78	8,486.78	100.0	非開示（注6）	非開示（注6）
16208	ドラッグユタカ向日上植野店（底地）	1	1,839.21	1,839.21	100.0	非開示（注6）	非開示（注6）
16209	ウエルシア尼崎武庫元町店（底地）	1	1,491.47	1,491.47	100.0	非開示（注6）	非開示（注6）
16210	ココカラファイン寝屋川公園店（底地）	1	2,728.00	2,728.00	100.0	非開示（注6）	非開示（注6）
16211	ENEOS伊川谷SS店（底地）	1	2,634.83	2,634.83	100.0	非開示（注6）	非開示（注6）
16212	ゲオ彦根高宮店（底地）	1	2,237.60	2,237.60	100.0	非開示（注6）	非開示（注6）
18101	シュロアモール長嶺	24	12,622.98	12,622.98	100.0	185	7.6
18201	ミスターマックス春日（底地）	1	38,113.27	38,113.27	100.0	84	3.5
18202	ユニクロ春日（底地）	1	5,426.59	5,426.59	100.0	13	0.6
18203	Avail.しまむら春日（底地）	1	8,752.57	8,752.57	100.0	23	1.0
18204	au-SoftBank春日（底地）	1	1,200.84	1,200.84	100.0	3	0.2
18205	くら寿司春日（底地）	1	2,257.85	2,257.85	100.0	7	0.3
18206	ドコモショップ春日（底地）	1	1,358.76	1,358.76	100.0	4	0.2

物件番号	物件名称	テナント総数（注1）	賃貸可能面積(㎡)（注2）	賃貸面積（㎡）（注2）	稼働率（%）（注3）	不動産賃貸事業収益（百万円）（注4）	総賃料収入比率（%）
18207	こんぴら丸春日（底地）	1	1,983.48	1,983.48	100.0	6	0.3
18208	ワンカルビ春日（底地）	1	1,983.48	1,983.48	100.0	6	0.3
18209	資さん春日（底地）	1	3,126.16	3,126.16	100.0	10	0.4
18210	ナフコ春日（底地）	1	33,928.37	33,928.37	100.0	非開示（注6）	非開示（注6）
18211	ケーズデンキ春日（底地）	1	16,961.48	16,961.48	100.0	37	1.5
19101	フジグランナタリー	1	28,543.96	28,543.96	100.0	非開示（注6）	非開示（注6）
19201	ケーズデンキ倉敷店（底地）	1	11,433.38	11,433.38	100.0	非開示（注6）	非開示（注6）
	合　計	319	402,102.46	399,164.36	99.3	2,444	100.0

（注1）「テナント総数」は、決算日現在のデータに基づき記載しています。なお、パススルー型マスターリース契約を締結している物件については、エンドテナントとの賃貸借契約の総数を記載しています。ただし、「フジグランナタリー」については、株式会社フジと一棟貸しの賃貸借契約を締結しているため、当該賃貸借契約の数を記載しています。

（注2）「賃貸可能面積」は、2024年1月31日現在における取得資産のうち各建物（取得資産が底地の場合には、当該底地）に係る各賃貸借契約、プロパティマネジメント会社作成の報告書又は建物図面等に基づき賃貸が可能と考えられる面積の合計を記載しています。なお、「ヨシヅヤYストア西春店」に係る「賃貸可能面積」については、賃貸面積の記載のない一部の賃貸借契約では竣工図等での賃貸面積に依拠しています。

「賃貸面積」は、同日現在の各賃貸借契約に表示された賃貸面積の合計を記載しています。また、マスターリース契約が締結されている資産に係る「賃貸面積」については、エンドテナントとの間で実際に転貸借契約等が締結され賃貸が行われている面積の合計を記載しています。ただし、株式会社フジと一棟貸しの賃貸借契約を締結している「フジグランナタリー」は、当該賃貸借契約の「賃貸面積」を記載しています。面積については、それぞれ小数第3位を四捨五入して記載しています。なお、本投資法人は、「tonarie大和高田」に係る信託受益権の50%の準共有持分を保有していますが、上表では当該物件全体の数値を記載しています。

（注3）「稼働率」は、決算日現在のデータに基づき、以下の計算式により算出し、小数第2位を四捨五入して記載しています。

「稼働率」＝「賃貸面積」÷「賃貸可能面積」×100

「ヨシヅヤYストア西春店」について

本物件は商業棟と住宅棟により構成されています。商業棟はマスターレッシーである日本エスコンが株式会社義津屋に対して転貸しており、上表に記載の「賃貸面積」には決算日現在において空き床となっている3階部分の「賃貸面積」4,485.14㎡も含めて記載しています。

当該3階部分については、テナント入居の実現に伴い契約面積に応じた坪当たり固定賃料が加算されますが、空き床であることを考慮し、3階部分の「賃貸面積」を控除して算出した場合の本物件の「稼働率」は82.8%となります。なお、これを加味した場合のポートフォリオ全体の「稼働率」については、98.2%となります。

（注4）「不動産賃貸事業収益」は、記載未満を切捨てて表示しています。

（注5）「クスリのアオキ斑鳩店（底地）」は株式会社クスリのアオキ及び株式会社イカリトンボの2社の借地人と事業用定期借地権設定契約が締結されており、各数値は2社の借地人に係る数値を合算して記載しています。

（注6）賃借人等より同意が得られていないことから非開示としています。

c.鑑定評価等の概要

保有資産について、本資産運用会社が、株式会社谷澤総合鑑定所、JLL森井鑑定株式会社及び大和不動産鑑定株式会社に鑑定評価を委託し作成された各不動産鑑定評価書の概要は以下のとおりです。当該鑑定評価書は、一定時点における評価者たる鑑定機関の判断と意見であり、その内容の妥当性、正確性及び当該鑑定評価額での取引可能性等を保証するものではありません。なお、本投資法人及び本資産運用会社とこれらの鑑定機関との間には、特別の利害関係はありません。

物件番号	物件タイプ	物件名称	鑑定機関	鑑定評価額（百万円）（注1）	積算価格（百万円）	直接還元法による価格（百万円）	還元利回り（%）	DCF法による価格（百万円）	割引率（%）	最終還元利回り（%）
11201	商業	ヤマダ電機テックランド札幌白石店（底地）	株式会社谷澤総合鑑定所	1,330	－	－	－	1,330	4.4	－
13101	商業	あすみが丘ブランニューモール	株式会社谷澤総合鑑定所	3,200	3,110	3,180	4.8	3,210	4.9	5.0
		あすみが丘ブランニューモール（底地）（注2）		① 143 ② 150	－	－	－	① 143 ② 150	①　4.4 ②（～2年度）　4.2 ②（3年度～）　4.3	－
13102	商業	西白井駅前プラザ	大和不動産鑑定株式会社	470	331	474	5.3	468	5.1	5.5
13201	商業	ケーズデンキおゆみ野店（底地）	JLL森井鑑定株式会社	2,890	－	－	－	2,890	4.7	－
13202	商業	ニトリ土浦店（底地）	JLL森井鑑定株式会社	1,100	－	－	－	1,100	5.3	－
13203	商業	ニトリ今市店（底地）	JLL森井鑑定株式会社	410	－	－	－	410	5.6	－
15101	商業	ヨシヅヤYストア西春店	大和不動産鑑定株式会社	2,260	4,800	2,280	5.0	2,250	4.8	5.2
15201	商業	マックスバリュ桔梗が丘東店（底地）	JLL森井鑑定株式会社	542	－	－	－	542	5.6	－
16101	商業	tonarie南千里	株式会社谷澤総合鑑定所	8,170	8,390	8,070	4.3	8,210	4.4	4.5
16102	商業	tonarie清和台	大和不動産鑑定株式会社	3,350	2,320	3,390	5.4	3,330	5.2	5.6
16103	商業	tonarie大和高田（持分50%）（注3）	JLL森井鑑定株式会社	3,985	3,685	4,040	4.9	3,925	4.7	5.1
16104	商業	tonarie栂・美木多	大和不動産鑑定株式会社	6,970	4,340	7,030	4.6	6,950	4.4	4.8
16201	商業	ラ・ムー北津守店（底地）	JLL森井鑑定株式会社	1,480	－	－	－	1,480	4.3	－
16202	商業	ケーズデンキ西神戸店（底地）	JLL森井鑑定株式会社	2,470	－	－	－	2,470	4.6	－
16203	商業	山陽マルナカ水谷店（底地）	JLL森井鑑定株式会社	1,540	－	－	－	1,540	4.6	－
16204	商業	TSUTAYA堺南店（底地）	JLL森井鑑定株式会社	1,040	－	－	－	1,040	4.5	－
16205	商業	ライフ大仙店（底地）	大和不動産鑑定株式会社	3,070	－	－	－	3,070	4.3	－
16206	商業	トライアル近江八幡店（底地）	JLL森井鑑定株式会社	1,110	－	－	－	1,110	4.6	－
16207	商業	クスリのアオキ斑鳩店（底地）（注4）	JLL森井鑑定株式会社	① 702 ② 29	－	－	－	① 702 ② 29	5.2	－
16208	商業	ドラッグユタカ向日上植野店（底地）	JLL森井鑑定株式会社	477	－	－	－	477	4.4	－
16209	商業	ウエルシア尼崎武庫元町店（底地）	株式会社谷澤総合鑑定所	577	－	－	－	577	（～6年度）　4.0 （7年度～）　4.1	－
16210	商業	ココカラファイン寝屋川公園店（底地）	株式会社谷澤総合鑑定所	719	－	－	－	719	（～4年度）　4.1 （5年度～）　4.2	－
16211	商業	ENEOS伊川谷SS店（底地）	株式会社谷澤総合鑑定所	531	－	－	－	531	（～6年度）　4.2 （7年度～）　4.3	－

物件番号	物件タイプ	物件名称	鑑定機関	鑑定評価額（百万円）（注1）	積算価格（百万円）	直接還元法による価格（百万円）	還元利回り（%）	DCF法による価格（百万円）	割引率（%）	最終還元利回り（%）
16212	商業	ゲオ彦根高宮店（底地）	株式会社谷澤総合鑑定所	305	－	－	－	305	4.3	－
18101	商業	シュロアモール長嶺	JLL森井鑑定株式会社	4,500	4,690	4,580	5.2	4,410	5.0	5.4
18201	商業	ミスターマックス春日（底地）	株式会社谷澤総合鑑定所	3,970	－	－	－	3,970	4.5	－
18202	商業	ユニクロ春日（底地）	株式会社谷澤総合鑑定所	677	－	－	－	677	4.6	－
18203	商業	Avail.しまむら春日（底地）	株式会社谷澤総合鑑定所	1,110	－	－	－	1,110	4.6	－
18204	商業	au-SoftBank春日（底地）	株式会社谷澤総合鑑定所	161	－	－	－	161	4.6	－
18205	商業	くら寿司春日（底地）	株式会社谷澤総合鑑定所	306	－	－	－	306	4.6	－
18206	商業	ドコモショップ春日（底地）	株式会社谷澤総合鑑定所	183	－	－	－	183	4.6	－
18207	商業	こんぴら丸春日（底地）	株式会社谷澤総合鑑定所	266	－	－	－	266	4.6	－
18208	商業	ワンカルビ春日（底地）	株式会社谷澤総合鑑定所	266	－	－	－	266	4.6	－
18209	商業	資さん春日（底地）	株式会社谷澤総合鑑定所	421	－	－	－	421	4.6	－
18210	商業	ナフコ春日（底地）	株式会社谷澤総合鑑定所	3,480	－	－	－	3,480	4.5	－
18211	商業	ケーズデンキ春日（底地）	株式会社谷澤総合鑑定所	1,870	－	－	－	1,870	4.5	－
19101	商業	フジグランナタリー	大和不動産鑑定株式会社	4,100	5,700	4,090	5.1	4,100	4.9	5.3
19201	商業	ケーズデンキ倉敷店（底地）	JLL森井鑑定株式会社	2,450	－	－	－	2,450	4.6	－
合計				72,780	－	－	－	72,628	－	－

（注1）「鑑定評価額」の価格時点はいずれも2024年1月31日です。「鑑定評価額」は、鑑定評価書に表示された金額を、百万円未満を切り捨てて記載しています。したがって、「鑑定評価額」の合計が、全体の合計と一致しない場合があります。
（注2）「あすみが丘ブランニューモール（底地）」は株式会社あきんどスシロー及び日本マクドナルドホールディングス株式会社の2社の借地人と事業用定期借地権設定契約が締結されており、「鑑定評価額」、「DCF法による価格」及び「割引率」は、株式会社あきんどスシローに係る部分を①、日本マクドナルドホールディングス株式会社に係る部分を②として、それぞれ記載しています。
（注3）「tonarie大和高田」については、保有資産が信託受益権の50%準共有持分であることに鑑みて、「鑑定評価額」、「積算価格」、「直接還元法による価格」及び「DCF法による価格」は準共有持分割合に相当する金額を記載しています。
（注4）「クスリのアオキ斑鳩店（底地）」は株式会社クスリのアオキ及び株式会社イカリトンボの2社の借地人と事業用定期借地権設定契約が締結されており、「鑑定評価額」及び「DCF法による価格」は、株式会社クスリのアオキに係る部分を①、株式会社イカリトンボに係る部分を②として、それぞれ記載しています。

(2) 資本的支出の状況

①資本的支出の予定

2024年1月31日現在の保有資産に関して、現在計画されている改修工事等に伴う資本的支出の予定額のうち主要なもの（1工事当たり、期末帳簿価額の1%以上）は以下のとおりです。なお、下記工事予定金額には、会計上費用に区分処理される部分が含まれています。

不動産等の名称	所在地	目的	予定期間	工事予定金額（百万円）		
				総額	当期支払額	既支払総額
tonarie南千里	大阪府吹田市	リニューアル工事	自：2024年7月 至：2025年1月	116	－	－

②期中の資本的支出

2024年1月31日現在の保有資産に関して、当期に行った資本的支出に該当する主要な工事等（1工事当たり、期末帳簿価額の1%以上）はありません。